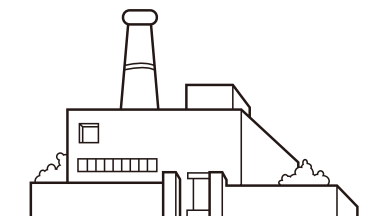


クリーンセンター建設に向けて



～クリーンセンター建設には、皆様のご理解とご協力が必要です～

現在、燃やすごみの処理は、精華町の打越台環境センターで焼却処理していますが、施設の稼働後30年が経過し、老朽化が激しいことから、新クリーンセンターの一日も早い建設・稼働を目指しています。クリーンセンター建設に、皆様のご理解とご協力をお願いします。

今回は、建設・稼働を目指すクリーンセンターの規模(予定)について、説明します。

平成21年度のごみ収集量の実績

平成21年度におけるごみ収集量は次のとおりです。

種別	木津川市	精華町	合計
家庭系ごみ	48.8 t/日	26.4 t/日	75.2 t/日
事業系ごみ	6.6 t/日	4.2 t/日	10.8 t/日
合計	55.4 t/日	30.6 t/日	86.0 t/日
うち焼却対象となるごみ量	約40 t/日	約21 t/日	約61 t/日

現状のごみ量では

現在の処理施設である打越台環境センターの施設規模は、60 t/日ですが、現状の可燃ごみを処理するのに必要な施設規模は、約83 t/日^{*}となります。このことから、打越台環境センターで処理しきれない燃やすごみについては、緊急避難措置として、民間委託し焼却処理しています。

※算定方法・・・施設の実稼働率(280日/365日)および調整稼働率(0.96)を考慮し、次の式により算定します。

$$\begin{aligned} \text{施設規模} &= \text{計画年間処理量} \div \text{実稼働率} \div \text{調整稼働率} \\ &= 61\text{t/日} \div 280/365 \div 0.96 \end{aligned}$$

将来ごみ量について

木津川市および精華町は、関西文化学術研究都市の宅地開発などにより、今後も人口が増加することが予想されます。また、現在の燃やすごみとして収集している燃やすごみの成分を調べてみると、水分や古紙類が多く含まれており、今後、生ごみの水切り徹底や、古紙類の再資源化などにより、ごみの発生抑制や減量化などに取り組むことが必要となります。将来ごみ量については、人口増とごみの発生抑制・減量化の取り組みを考慮し、施設規模を次のとおり算定しました。

今回計画のクリーンセンター規模について

平成37年におけるごみ収集量を、次のとおり推計しました。

種別	木津川市	精華町	合計
うち焼却対象となるごみ量	約44 t/日	約25 t/日	約69 t/日

このごみ量に基づいて、施設規模を算定すると、約94 t/日が必要となります。今後、安心・安全対策はもちろんのこと、周辺環境にも配慮し、クリーンセンターの早期建設・稼働に向け取り組みます。

ごみの減量をお願いします

ごみの発生抑制・減量を推進するためには、皆さん一人ひとりの減量に向けた取り組みが必要不可欠です。具体的なごみの減量に関する施策について、廃棄物減量等審議会を設置し、有効なごみの減量施策について、検討を進めています。(16ページに掲載) 今後も、ごみの排出抑制・減量にご協力をお願いします。

問合せ まち美化推進課 清掃センター推進室
☎75-1215 Fax72-3900
E-mail: clean-center@city.kizugawa.lg.jp